

## 坂 昌樹さんに感謝を込めて

学長 松 浦 道 夫

しばらく呆然、信じられなかった坂さんとの別れから早一年を迎えます。その二か月前には彼との楽しい別れがありました。ウェイトリフティング部の追い出しコンパのあと、いつものように数人でカラオケもない、女性もいない静かな語らいのバーへ行きました。「松浦さん、すみませんねえ、ひと足お先に好きなことさせてもらいます。でも、ベストを尽くしたつもりです。」私は少しばかりの羨望を交えながら、心から感謝して国際センター長としての坂さんと一応の別れをしたのです。彼は本当にベストを尽くしてくれました。桃山の看板「国際交流」がここまで拡大発展したのは、彼と彼のグループの努力あってのことです。すなわち彼は安心と信頼と期待を周りの者に与える男性でした。

坂さんと私の信頼関係・友情の芽生えは遅まきながらと言ったほうがよいでしょう。ともに文学部に所属し、一般教養を担当していましたが、のちの分属とともに経済学部に移りました。旧カリキュラムの時期の総合講座「スポーツと人生」というテーマで2コマを担当してもらいました。彼がアルピニストであり、学生時代の山岳部からずっと山登りを続けていることを知ったからです。最初の授業で、教壇にアルピニストの道具一式が並んでいるではありませんか。学生達はピッケル、ザイル、リュック、ブーツ等を見ながら興味津津でした。パワーポイントを使って、美しい山々がスクリーンに映し出されました。その中の一つ、若い男女が岩場に座っているシーンが目立ちました。「あれ誰、あの女性は」と学生達、「私と彼女です」と坂先生。「今、彼女は」と質問、「私の妻です」にワァーと学生達は大喜びでした。ロ

マンチストな先生に学生達は感激しました。チャイムが鳴っても学生達は先生に質問を続けていました。アイデアと準備と体験からくる生きた話で、学生の心を掴む素晴らしい授業でした。

一方でウェイトリフティング部の部長として欠かさずコンパに参加され、部員やOBから信頼を得、感謝されていました。でも、坂先生の講義を部員達はこぞって受講するのですが、「難しい、厳しい」と異口同音に呻いていました。甘えを許さず、最後まで頑張らせる指導にさすが山岳部と感心しました。私はOB会長として参加し、二次会はいつも静かにアルコールを味わいながら、語り合っていましたから、コンパ出席は楽しいひと時でした。坂さんと夢を語り合えるチャンスでもありました。

国際センター長と学長の立場の関係では、最初にイタリアのペルージャー市民マラソン参加とペルージャー外国人大学との交換留学の提案を思い出します。まだ学長就任前でしたが、坂さん、野原さん、朴さんらに国際センターに呼ばれ、ペルージャー外国人大学の東条さんを紹介されました。彼らの勧めがあって一般学生のスポーツ交流とペルージャー外国人大学との交換留学の話がまとまりました。そして坂さんに国際センター長就任を依頼したのです。その後の交換留学・交流拡大は皆さんのよく知るところです。坂さんとは、ペルージャー、啓明大、南通大、そしてベトナムのハノイ大、ハノイ貿易大へ一緒に行動しました。ペルージャーでは、アッジを初めて見学しましたが、坂さんの解説のお陰で見聞が広がりました。さすが外国史専門、彼の博識に感嘆しました。そのうえアルコールのほうも博識でした。

ついで南通大の帰り、上海での出来事です。6人のメンバーで歓迎され疲れ気味のところ、安心したのかそのうちの4人が食あたりになりました。坂さんと私だけが無事でした。周りから強いと言われましたが、二人とも用心深くコンディションの調整を図っていただけです。旅慣れと山岳部の注意力を見た気がしました。

2006年の秋、ベトナムへ関西日越協会、安原福祉財団の世話人と一緒に行きました。目的はハノイ大、ハノイ貿易大との交換留学の話でした。そこで

も坂さんは本領を発揮しました。交渉はすべて彼のペースで進み、ついでに財団から5名分の奨学金枠をその場で確約させました。見事な交渉術を拝見して、すべてに楽しく、実りある旅となりました。

また、同窓会からの援助で、卒業生の留学制度を作ったのも彼の尽力によるものです。

終わりに、大学の責任者として坂さんの功績に感謝するとともに、一友人として真のスポーツマン，教育者，研究者の彼に敬意を表します。